

## 協会けんぽ対話集会の概要

1. 日 時 平成21年11月16日(月) 18:00~20:00
2. 場 所 主婦会館プラザエフ(東京都千代田区)
3. 出席者 貝谷理事、矢内東京支部長、栗田栃木支部長
4. 意見発表者 社会保険労務士、医療関係会社経営者、外科医(病院勤務)、シンクタンク職員
5. 参加者数 37人
6. 概 要 協会けんぽの現状や加入者アンケートの結果について説明後、4人の意見発表者の方から意見を伺いました。

意見発表者の方から出された主な意見は以下のとおりです。

### (電子申請)

- 社会保険労務士が電子申請する場合に被保険者本人の委任状があれば、本人の電子署名を不要とすることはできないか。

### (現金給付)

- 運営委員会で検討されている現金給付の見直しについては加入者から広く意見を募集してはどうか。

### (保健事業)

- 民間のフィットネスクラブと提携して健康増進の取組みを行うことはできないか。
- 予防的医療(ワクチン接種など)は、長期的には医療費の節約につながる可能性がある。予測される費用と効果を比較し、独自に補助制度を創る等検討してはどうか。

### (保険者機能強化アクションプラン)

- アクションプランの取組ごとに目標と期限を設定し、加入者へ伝えていくことが必要。
- 関係方面への発信において発信力を高めるため、データ分析を行うとともに、加入者や事業主との意見交換会を開き、加入者の声を集めることが必要。

- 海外のように、疾病ごとに検査、投薬や治療で使われている医療費の内訳を集計し、加入者に情報提供してはどうか。その結果をもとに保険料の配分見直しや費用対効果の高い治療法の選択を提案できる基盤ができる。
- ジェネリック医薬品希望カードの内容を被保険者証に記載してはどうか。

(医療機関への働きかけ)

- 医療機関によっては必要のない投薬などがなされているのではないか。そうであれば医療機関に対して何らかの働きかけをしてはどうか。

(保険料以外の収入)

- 保有する医療情報を活用し、保険料以外の収入を得るための事業をしてはどうか。

(保険料の設定)

- 保険料の単位を都道府県から市町村にすることで、負担と給付の関係が見えやすくなり、加入者自身が医療費を節約する意識を強めることができるのではないか。